

経済指標も弱く ZAR は軟調に推移か

- ◆豪雇用情勢は RBA の予測通り、このままなら来年に利上げも
- ◆RBA 議事要旨のサプライズは期待薄
- ◆新興国通貨売りに遅れていた ZAR は弱い経済指標も頭を抑えるか

予想レンジ

豪ドル円 81.00-88.00 円

南ア・ランド円 7.91-8.68 円

6月18日週の展望

豪ドルは、米中貿易摩擦懸念はあるが、底堅い動きか。先週発表された 1-3 月期国内総生産 (GDP) が市場予想を上回り、豪準備銀行 (RBA) の声明文通りに 3% を超える結果が出て以来、豪ドルの買い意欲が出てきている。今週発表された 5 月の就業者数は、声明文の「ここ最近の雇用の伸びは緩やか」と公表した通りに、伸びが緩やかなものになった。今後も RBA の想定通りに経済情勢が続くと、今週の講演でロウ RBA 総裁が「利上げはまだ先だが、経済成長が維持できれば、次の一手は利上げ」と発言しているように、来年には利上げを期待する声が出てくる可能性がある。

豪州からは 19 日に 1-3 月期住宅価格指数、今月 5 日に行われた RBA 金融政策決定理事会の議事要旨が公表される。5 日の理事会後の発表された声明文は「低金利が引き続き経済を支援」「賃金の伸びは底打ち」「成長率は 2018 年と 2019 年は 3% を少し上回ると予測」など 5 月理事会とほぼ同じ内容だったことを考えると、議事要旨も大きな違いはないと思われる。

南ア・ランド (ZAR) は、上値の重い動きが続くそう。先週発表された 1-3 月期 GDP、今週発表された 4 月小売売上高はともに市場の予想を裏切る結果となった。政治的にはラマポーザ政権への期待感があるものの、今後は新興国通貨の下落に ZAR が追随する可能性があり、相次いで発表されている弱い経済指標も ZAR の重しになりそう。

来週は 20 日に 5 月の消費者物価指数 (CPI)、21 日に 1-3 月期経常収支が発表される。4 月に発表された CPI は 3 月の前年比 +3.8% を上回る +4.5% だったが、市場予想の +4.7% を下回った。南アにとってはインフレ抑制のために CPI の鈍化は望ましい。来週も経済指標の結果に ZAR は左右されることになりそう。

6月11日の回顧

豪ドルは、週半ばまでは小動きだったが、米中貿易摩擦懸念が高まりじり安となった。注目されていた 5 月雇用統計では、失業率は市場予想の 5.5% や 4 月の 5.6% から 5.4% に改善された。一方、就業者数は 1 万 2000 人の増加となったが、市場予想の 1 万 8000 人の増加に届かず、4 月も下方修正された。他の経済指標では NAB 企業景況感 +15、企業信頼感 +6 となり両方とも前回を下回った。4 月住宅ローン貸出は市場予想の -1.9% や前回の -2.3% よりもマイナス幅が小さい -1.4% となった。それぞれまちまちな結果となったことで、豪ドルの反応は限られたものとなった。

トルコリラ (TRY) やアルゼンチンペソなどの新興国通貨の下落は弱まったが、新興国通貨の中で売り遅れていた ZAR は、この数週間、売り圧力が続いている。13 日に発表された 4 月の小売売上高は前年比 +0.5% となり、前回の +4.1% より大幅に減少したことで ZAR の頭を抑えた。また、南アフリカ国営電力会社エスコムがストライキにより電力供給を停止したとの報道を受けて、年初来安値を更新した。(了)